

みずほマーケット・トピック(2025年5月16日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円は、概ね上に往って来い。週初12日、早朝から米中通商交渉に関して双方より前向きなコメントが伝わる中、145.86円と上昇してオープンしたドル/円は、146円を挟んで小動き。海外時間は、米中貿易協定の予想以上の合意内容を好感し、148円台前半へ急騰。その後も株高や米金利の大幅上昇を支えに、一時週高値となる148.65円に上値を伸ばした。13日、ドル/円は日米為替協議への警戒感から148円を割り込む展開。海外時間は、148円台を回復する場面もあったが、米4月消費者物価指数(CPI)の弱めの結果を受けドル売り優勢となり、147円台半ばに下値を切り下げた。14日、ドル/円はドル売りが続き、一時147円を割り込む。海外時間は、米韓為替協議の思惑が波及しドル売りが強まる中で、145円台後半に急落した。その後は、ドル安誘導を否定する米当局者談の報道を受けドル売りが一服し、147円を目指し反発した。15日、ドル/円は実需のドル売りが重しになり、一時146円を割り込む展開。海外時間は、米4月小売売上高や米4月生産者物価指数(PPI)の軟調な結果を受けた米金利低下と共に145円台半ばに続落した。本日のドル/円は、仲値に向け円買い優勢となり、145円付近で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、下に往って来いの展開。週初12日、1.1229でオープンしたユーロ/ドルは1.12台半ばへ小幅高も、米中通商協定の予想を超えた合意結果を受けたドル買い相場が嫌気され、一時週安値となる1.1065まで急落した。13日、ユーロ/ドルは軟調な米インフレ指標を受けたドル売りの流れが好感され、1.12手前に上昇した。14日、ユーロ/ドルは米韓の為替協議関連報道を受けたドル売りが支えとなり一時週高値となる1.1265に急伸も、その後は米金利上昇や米関係者談の報道が重しとなり1.11台後半へ反落した。15日、ユーロ/ドルは材料難の中で、1.12を挟んで方向感なく推移した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.12付近で取引されている。

		前週末	今 週			
		5/9(Fri)	5/12(Mon)	5/13(Tue)	5/14(Wed)	5/15(Thu)
ドル/円	東京9:00	145.96	145.86	148.22	147.52	146.65
	High	146.18	148.65	148.46	147.66	146.75
	Low	144.83	145.60	147.38	145.62	145.42
	NY 17:00	145.35	148.46	147.48	146.78	145.68
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1230	1.1229	1.1096	1.1188	1.1181
	High	1.1293	1.1242	1.1194	1.1265	1.1229
	Low	1.1197	1.1065	1.1090	1.1165	1.1170
	NY 17:00	1.1248	1.1087	1.1186	1.1174	1.1185
ユーロ/円	東京9:00	163.87	163.86	164.47	165.13	163.94
	High	163.90	164.91	165.20	165.13	163.94
	Low	163.24	163.75	164.16	163.76	162.77
	NY 17:00	163.48	164.64	165.06	163.97	162.87
日経平均株価	37,503.33	37,644.26	38,183.26	38,128.13	37,755.51	
TOPIX	2,733.49	2,742.08	2,772.14	2,763.29	2,738.96	
NYダウ工業株30種平均	41,249.38	42,410.10	42,140.43	42,051.06	42,322.75	
NASDAQ	17,928.92	18,708.34	19,010.09	19,146.81	17,382.94	
日本10年債	1.35%	1.39%	1.44%	1.45%	1.48%	
米国10年債	4.38%	4.47%	4.47%	4.54%	4.43%	
原油価格(WTI)	61.02	61.95	63.67	63.15	61.62	
金(NY)	3,344.00	3,228.00	3,247.80	3,188.30	3,226.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 欧州では、22日(木)にECB政策理事会議事要旨(4月会合分)が公表予定となっている。4月会合は▲25bpの利下げを実施した。預金ファシリティ金利は、2.50%から2.25%に引き下げられた。利下げは6会合連続。声明文においては、「金融政策は実質的に抑制的でなくなりつつある」との表現が削除されたことが注目を集めた。ラガルド ECB 総裁は、この文言削除に関し、あまりに不確実性が大きい環境下では中立金利という概念は使えないので、よって引き締めるか緩和的かといった判断がそもそも難しいことを説明した。先行きの利下げ継続の示唆こそなかったものの、総裁会見では景気のダウンサイドリスクの大きさが強調されており、ここもとのディスインフレ進展も考慮に入れれば、今後も利下げ路線そのものが続くと考えるのが妥当であろう。
- 本邦では、23日(金)に3月消費者物価指数(CPI)が公表予定。コアCPI(生鮮食品除く)に関し、前回3月の結果は+3.2%(前年比、以下同様)と市場予想に一致し、2月の+3.0%からは伸びが拡大した。なお、エネルギー要因も除外したコアコアCPIは+2.9%となっており、3月の+2.6%から伸びが加速した。ただし、サービス価格は+1.4%と加速感はなく、強さを見せる賃金情勢が物価に十分に波及しているとは判断できない。もっとも、4月は多くの品目で価格改定がみられることから、非連続的な変化がみられる可能性がある。実際、全国の結果に先立ち発表された東京都区部の4月CPIはコア、コアコアいずれも市場予想を大きく上回るなど強い結果であった。高校授業料無償化の影響が大きいとはいえ、注目を集めるサービス価格の伸びは+2.0%と実に13か月ぶりの高水準となった。なお、4月の結果(全国)に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+3.6%、コアベースで+3.5%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
5月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 1~3月期GDP(速報) 3月鉱工業生産(確報) 3月設備稼働率 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏3月貿易収支 米4月輸入/輸出物価指数 米5月ミシガン大学消費者マインド(速報)
19日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 3月第3次産業活動指数 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏4月消費者物価指数(確報)
20日(火)	—————	<ul style="list-style-type: none"> 独4月生産者物価指数 ユーロ圏3月ECB経常収支 ユーロ圏5月消費者信頼感(速報)
21日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 4月貿易収支 	—————
22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 3月コア機械受注 5月製造業/非製造業PMI(速報) 4月工作機械受注(確報) 	<ul style="list-style-type: none"> 独5月IFO企業景況感指数 ユーロ圏5月製造業/非製造業PMI(速報) ユーロ圏ECB政策理事会議事要旨(4月会合分) 米5月製造業/非製造業PMI(速報) 米4月中古住宅販売件数
23日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 4月消費者物価指数 	<ul style="list-style-type: none"> 独1~3月期GDP(確報) ユーロ圏1~3月期妥結賃金 米4月新築住宅販売件数

【当面の主要行事日程(2025年5月~)】

ECB政策理事会(6月5日、7月24日、9月11日)
 日銀金融政策決定会合(6月16~17日、7月30~31日、9月18~19日)
 FOMC(6月17~18日、7月29~30日、9月16~17日)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年5月15日	懲りないドル安ナラティブ～3度目の光景～
2025年5月14日	円の基礎的需給環境について～25年1～3月期～
2025年5月13日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その②～
2025年5月12日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その①～
2025年5月9日	週末版(米英合意を受けて～むしろ心配になる米EU交渉～)
2025年5月8日	FOMCを終えて～デュアルマンドートの拮抗～
2025年5月7日	逆「アジア通貨危機」観測の考え方
2025年5月2日	週末版(日銀会合を終えて～「何もわからず、何も決められず」の状況～)
2025年4月28日	EUの対米戦略について～「デジタル赤字への課税」も～
2025年4月25日	週末版
2025年4月24日	不確実性極まるIMF報告～WEOとGFSR～
2025年4月23日	最強通貨の地位が続くスイスフランからの教訓
2025年4月22日	加藤・ベッセント会談プレビュー～為替は争点なのか？
2025年4月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月スタッフ見通しの重要性を強調～)
2025年4月17日	マールアラゴ合意の読み方～40年前の再現は不可能～
2025年4月15日	日本の構造変化vs. 国際金融体制の再編
2025年4月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年3月分) 日米通商交渉プレビュー～論点の検討～
2025年4月11日	週末版(リスクシナリオの高まり～不穏なベッセント発言～)
2025年4月9日	トランプ大統領は「カーブ効果に耐えられるのか」
2025年4月8日	残された望みは「緊急協調利下げ」か？
2025年4月7日	インバウンド需要はピークアウトするか？
2025年4月4日	週末版(正論を掻き消す時代の振り子～デタラメ過ぎる関税根拠と為替政策報告書～)
2025年4月3日	厳しい対米貿易の展望～輸出は減り、輸入は増える～
2025年4月2日	トランプ時代の「為替政策報告書」の意味を考える
2025年4月1日	1～3月期の為替市場外観～割を食うユーロ圏～
2025年3月28日	週末版(世界に広がるスタグフレーションシナリオ～25%自動車関税の行方～)
2025年3月25日	インフレに適應する家計部門～「貯蓄」から「逃避」～
2025年3月24日	インフレか、デフレか～FOMCを終えて～
2025年3月21日	週末版(日銀会合を終えて～「史上最大の円ロンク」、2つの先行き～)
2025年3月18日	「暖かい水」が流れ込むユーロ圏の近況について
2025年3月17日	日銀会合プレビュー～現状維持が基本に～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年2月分)
2025年3月14日	週末版(史上最大だった対外直接投資～厚くなる日本の「仮面」～)
2025年3月12日	過去最大の円ロンクに勝算はあるのか？
2025年3月11日	テーマ化する「欧州の再軍備」～EUの場合～
2025年3月10日	テーマ化する「欧州の再軍備」～ドイツの場合～
2025年3月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～拡張財政路線の足音～)
2025年3月5日	ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～後編～
2025年3月4日	トランプ発言を受けて～「円安はするい」の一点張り～
2025年3月3日	ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～前編～
2025年2月28日	週末版
2025年2月27日	欧米デカップリングに対するECBの見解
2025年2月25日	ドイツ総選挙レビュー～「壁の内側」では何も変わらず～
2025年2月21日	週末版(不安漂う米国の消費者マインド～追加関税の副作用～)
2025年2月20日	トランプ就任1か月、金利・為替はどう動いたか 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年1月分)
2025年2月18日	円建て輸入物価で読む日銀の「次の一手」
2025年2月17日	本邦10～12月期GDPを受けて～鮮明になるインフレ税～
2025年2月14日	週末版(窮屈になりそうなECBの政策環境～追加関税とユーロ安～)
2025年2月13日	ドイツ総選挙の展望～重いメルケルの「負の遺産」～
2025年2月12日	デジタルに規定されるサービス赤字10兆円時代の足音
2025年2月10日	為替需給から整理する日米首脳会談
2025年2月7日	週末版(円高の背景整理～その持続性を疑う～)
2025年2月5日	関税相場と円相場～日米首脳会談を控えて～
2025年2月4日	「需給ギャップ」は利上げしない理由になるか？
2025年1月31日	週末版(ECB政策理事会を終えて～極めて大きくなる欧米格差～)
2025年1月30日	FOMCを終えて～近づくと「利下げの終わり」～
2025年1月28日	一抹の不安を感じる大統領と財務長官の齟齬
2025年1月27日	日銀会合を終えて～円安次第、変わらず～
2025年1月24日	週末版
2025年1月23日	ユーロ安の影響に言及したラガルドECB総裁
2025年1月22日	ワンノッチは解消されたのか～日銀プレビュー～
2025年1月21日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年12月分) 就任演説を受けて～気になる原油価格の今後～
2025年1月17日	週末版
2025年1月15日	「NISA貧乏」もインフレ税の結果
2025年1月14日	サービス収支赤字の長期試算～赤字▲10兆円の常態化か？～
2025年1月10日	週末版
2025年1月9日	円金利上昇でも円安～恐れていた事態～
2025年1月8日	早速、バリエーションを視野に捉えるユーロ/ドル相場
2025年1月7日	ブラックスワンとしての「プラザ合意2.0」を考える
2025年1月6日	25年、円相場見直しポイント整理
2024年12月24日	家計金融資産の現在地～進んだ「貯蓄から投資」～
2024年12月20日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～円相場は1月まで持つのか～)
2024年12月19日	FOMCを終えて～やはり高そうな中立金利～
2024年12月18日	ドル覇権への挑戦と第二次トランプ政権
2024年12月16日	スイスフランと円の差を考える～貿易収支の大きな違い～
2024年12月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年11月分) 週末版(ECB政策理事会を終えて～目指すは中立金利以下か？～)
2024年12月11日	本邦大手保険会社の海外企業買収報道を受けて
2024年12月10日	続・円相場の需給環境について～25年ポイント補足～
2024年12月9日	2025年見通しのポイント～金利編その②～
2024年12月6日	週末版(流動化する欧州政治とユーロ相場～内憂外患そのもの～)
2024年12月5日	2025年見通しのポイント～金利編その①～
2024年12月3日	2025年見通しのポイント～需給編その②～
2024年12月2日	2025年見通しのポイント～需給編その①～
2024年11月29日	週末版
2024年11月28日	英国ISAと新NISA、資本逃避を巡る似て非なる悩み
2024年11月27日	目標にすぎではない「実質賃金の上昇」
2024年11月25日	2年ぶりに注目されるユーロ/ドルのバリエーション
2024年11月22日	週末版(史上最大の要約資金も利下げ路線に影響なし～ユーロ圏7-9月期要約資金を受けて～)